

○金沢市 DX アクションプランの進捗について

・除雪や防災、ハザードマップなど何かあった時に市民の安全に関わるものに特に力を注いでもらいたい。

・デジタル行政推進リーダーは着実に増えている。リーダーはどのようにして選考しているのか。

→意欲的な若手職員を育てていきたいと考えており、自薦を優先している。今年度は、定員を超える応募があり、ようやく根付いてきたと感じる。

・リーダーが増えてくることによりアクションプランが進められているとも言えると思うので、ぜひこれからも積極的に取り組んでいただきたい。

→今年度からチーム活動も開始し、実践的な課題解決による職員の意欲向上にもつながると考えている。

・デジタル通学路マップが今年度整備され、来年度の運用となる。シビックテックの活動のなかで、保護者の方々が通学路の危険な場所を子供たちと集めてデータ化していた。通学路がオープンデータ化されたら、実際に子供が歩いているのは通学路なのかということも分析できる。

・これから事業を進めていくなかでデータが生み出されてくると思うが、事業の最初からデータのオープンデータ化や、データ利活用のしやすいデータ作成について考慮して事業を実施してもらいたい。

→石川県も広域データ連携基盤を整備しており、県内自治体のオープンデータを集めている。特にマップのようなデータは利用価値が高いと感じるので、意識をもって取り組んでいきたい。

・行政DXについて取り組んでいる自治体は多いが、金沢市は地域に向けたDXにも取り組んでいる。

・交通データ活用による施策のモバイル空間統計については、これだけに限らずに他のデータ分析と併せて活用すると良い。

・快適度マップについてデータ利活用の拡大、デジタルマーケティングについては、宿泊事業者だけではなく小売り店舗も含めた検討ができれば効果的と感じる。

・e スポーツは、啓発するイベントは実施しても、継続的に定着する仕組みが難しいと感じている。他の自治体での実施状況を参考とし、連携していくことも検討してもらいたい。

→e スポーツについては、具体的な実施方法はこれから検討するが、まずは実施して来年度に向けて研究していきたい。